

市長記者会見記録

日時：2020年2月18日（火）14時00分～14時24分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：令和2年第1回川崎市議会定例会議案概要等について（総務企画局、財政局）

【話題提供】市バス70周年を記念した事業を実施します（交通局）

<内容>

《市バス70周年を記念した事業を実施します》

【司会】 お待たせいたしました。ただいまより、市長記者会見を始めます。本日は話題提供といたしまして、市バス70周年を記念した事業を実施しますとなっております。

それでは、福田市長から御説明いたします。市長、よろしく願いいたします。

【市長】 川崎市バスの70周年記念事業について御説明させていただきます。

市バスは、昭和25年、1950年に開業、営業を開始し、今年で70年となります。これを記念して、イベントや記念グッズの販売、ラッピングバスの運行などの事業を市バス70周年記念事業として実施していく予定でございまして、その中で、今回、2つのお知らせをさせていただきます。

まず1つ目ですが、市バス70周年を効果的にPRするため、記念ロゴマークを作成いたしました。このロゴマークは、イメージキャラクターのかわさきノルフィンとともに、市域全体を走る市バスがお客様の生活を支える足として続いていくことを表しています。

次に、2つ目として、川崎ブレイブサンダースとの同級生コラボです。川崎スポーツパートナーである川崎ブレイブサンダースは、1950年に前身となる同好会が活動を開始し、今シーズンを70周年と位置づけて戦っておりまして、市バスとは同級生となります。お互いの70周年を記念いたしまして、3月14日、15日にとどろきアリーナで開催されるBリーグ公式戦に際し、イベントを実施いたします。

内容といたしましては、ブレイブサンダースのラッピングバスの展示や、記念グッズとしてノルフィンと、ブレイブサンダースのマスコット、ロウルのコラボマフラータオルの限定販売を行います。当日、試合を観戦する方はもちろん、そうでない方も是非会場に足を運んでいただければと思っています。

今回お知らせいただく内容は以上ですが、市バス70周年記念事業としては、令和

2年12月に向けて、様々な事業を予定しているところでございます。詳細につきましては、交通局より随時、報道発表やホームページなどによりお知らせしてまいります。以上です。

【司会】 それでは、ただいま御説明いたしました件、並びに市政一般に関する質疑に入らせていただきます。進行につきましては、幹事社様、よろしく願いいたします。

《新型コロナウイルス関連について》

【幹事社】 今日午前中の新型コロナの対策会議には伺えなかったんですけども、今日、改めて市長から何か御指示されたことがありましたら、教えていただきたいのと、あと、当面、市で予定している催し物ですか、等の開催の是非で何か判明しているものがありましたら、教えてください。

【市長】 まず、今日の新型コロナの対策会議では、改めて私たちが今どういう状況のフェーズにいるのかということで、県内発生早期という段階であるという認識をして、その対応ということで、市民の皆様には適切な情報提供をしっかりとやっていかなくちゃいけないということで、対策としては、よく言われている、せきチケットでありますとか、そういった一般的な感染症予防という対策をしっかりといただくこと、それから、不要不急なとか、何かを自粛だとか、制限するということではまだないという専門家の知見とか、健康安全研究所の岡部所長からの見解も共有させていただきました。

一方で、高齢者などは、あるいは持病をお持ちの方というのは、感染すると重症化する可能性が高いということでありますので、そういったことを配慮して、不要不急な外出を避ける。それから、風邪症状のある方、そういう方については、イベントだとか、人の多いところ、人出の多いところを避けていただくとか、そういう配慮とか、自粛というのはしていただきたいということ、それをしっかりと正確に伝えていく必要があるということで、対策本部内で確認したところでございます。

《羽田新ルート飛行確認について》

【幹事社】 わかりました。コロナとはちょっと別の話になるんですけども、羽田の新ルートの確認飛行の騒音の測定値で、川崎の騒音が94デシベルということで一番高い数値が出たということなんですけれども、国交省は想定の範囲内というような言い方をしているんですけども、苦痛を与えられている住民の方もいるやに聞いてい

るんですけども、この数字を市長はどのように受け止めていらっしゃいますか。

【市長】 速報を公表したということであって、現在、精査を進めて、行っているということなので、速やかにその結果をしっかりと報告していただきたいと求めているところです。現在のところ、川崎市に入っている、寄せられている御意見として、2月14日時点で8件と聞いております。騒音については5件という内容で伺っております。これからも意見等はしっかりと国のほうに伝えていきたいと思っております。

【幹事社】 騒音についての5件というのは、やっぱりひどいなとかというような内容でしょうか。

【市長】 私も試験飛行を確認に現地に参りました。音の大きさをどう感じるかというのは人それぞれの感覚の問題なので、私がどうのこうのということではありませんけれども、こういった騒音に対することでは5件の苦情があるということは認識しておりますし、そういったこともあったということは、しっかりと国のほうにも伝えていかなければならないなと思っております。

《令和元年台風第19号関連について》

【幹事社】 わかりました。あと、ごめんなさい。話があちこちになってしまって。昨日、多摩川の水害の検証についての中間報告書を出されていましたが、被害に遭われた住民の中で第三者委員会を設置して検証してほしいという声がありまして、その理由としては、水門の開閉の妥当性とかについて、どうしても市内部だけの判断になっちゃうと客観性が保てないんじゃないかという御懸念を示されている方がいらっしゃるんですけども、そういった行為については、市長はどのように捉えていますか。

【市長】 何ていうんでしょうか。どういう人選、第三者の方から意見を聞くかというのは、まだ名前ですとか、どういう方々がというのをお知らせしていないので、そういった情報のない中では、どういうことになるのか御懸念されているのかなと思います。これまでも申し上げてきたとおり、これまでの妥当性だとか、そういったことを検証しているので、そういうことについて客観的に第三者の御意見もいただくと、スピード感を持ってやっていくということでもありますのでしっかりと、繰り返しここでも言っておりますけども、お手盛りと言われることがないようなことをやっていきたいと思っております。

【幹事社】 とりあえず以上です。

《新型コロナウイルス関連について》

【幹事社】 新型コロナについて、もう一点、お伺いなんですけれども、岡部所長の存在は大変心強いなというふうに感じているところなんですけど、先日、岡部所長の動画を収録して公開をされました。非常に分かりやすい動画だなというふうに感じたんですけれども、改めてあれを皆さんに活用していただきたいという呼びかけを含めて一言、いかがでしょうか。

【市長】 そうですね。今日の対策会議で協議したのは、Y o u T u b e で公開して8万3,000件を超えるアクセスをいただいているということで、大変高い関心を持っていただいている。いろんな噂だとかがある中で、正しい知識をちゃんと持って自ら守っていただくというためにも、是非御覧になっていただきたいなと思っています。

【幹事社】 ありがとうございます。以上です。

《日本製鉄呉製鉄所閉鎖関連について》

【幹事社】 すいません。もう1点。日本製鉄の呉製鉄所が閉鎖の方針を示されて、つい先頃もJ F E スチールの川崎工場の製鉄所のラインが一部中止になるということで、製鉄業界は冬の時代というふうに言われていますけれども、この一連のニュースを市長はどのように受け、臨海部ビジョンを川崎市は示されていますけれども、一連の動きをどのようにお受けとめになっていますか。

【市長】 呉工場の閉鎖というのは非常にショッキングというか、業界人でない立場からすると非常にインパクトのあるニュースでありましたし、地域経済に与える影響も大きいだろうと思います。本市のJ F E のことについても一部停止を、製品については停止をするという報道を聞いて、本当に日頃からいろんな情報交換をJ F E さんともやらせていただいておりますけれども、鉄鋼そのものが非常に厳しい状況だというのは業界全体の認識だと思っておりますので、一方で、非常に付加価値のある素材というのをJ F E さんも、力をこれまでも入れてきているし、これからもということでありますので、同じ会社の中でもやはりそういった生産の物、どういう物をつくっていくかというのがかなり進んでいくんだろうなと思っております。これからどういう影響が出てくるのかというのを注視はしていきたいと思っております。

【幹事社】 わかりました。ありがとうございます。

各社さん、どうぞ。

《新型コロナウイルス関連について》

【記者】 じゃ、すいません。よろしくお願ひします。

午前中のコロナウイルスの対策会議で消防局さんの定期演奏会の話がちょっと出ました。中では、人数も多いし、ちょっと高齢者の方、ファンの方も多しというお話で、難しい話だなというところで終わっていたかと思うんですが、その後、何か決まったことがあったら。

【市長】 あれ以降、消防局と保健所との意見交換をしたようで、それで、事前に、これこれこういうふうな取組をしてくださいということで、風邪の症状がある方は御遠慮くださいとか、あるいはアルコールだとか、そういった準備もしてという一定の条件のもとに予定どおり開催するという結論に至ったと報告を先ほど受けました。

【記者】 午前中でもあったように、岡部先生のほうでは、要するに、まだ健康状態が万全な人の行動に何らかの制限を加えるようなフェーズではないというところで、今回、こういう判断をされているということによろしいですね。

【市長】 はい。

《市民ミュージアム関連について》

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

もう1件が先日、私の情報開示請求に対して、市民ミュージアムの被災資料というものの、作品名というのが非開示の形で公表されました。先日の会見でもお伺いしましたけれども、市民財産であるというところと、作者、寄贈者の方の理解を得られない状態で公表するのは難しいというお話で、ただ、その段取りはとっていくということでお話があったかと思ひます。実際、話を聞いてみると、その段取りをとっていくということはわかるんですが、その理解をとるといふところまで、まだ至っていないというのが現状のようなので、この状況については、それはやむなしというふうなお立場なのか、そこら辺の、市長のお考えをお伺いしたいなと思ひます。

【市長】 なるべく早く定期的に、今の進捗、どうなっているのかということで、どういふ作品がということ、これまでも言ったとおり、市民共有の財産であるということから公表していかなければならないと思ひています。ですから、所有者が、作家だとか、あるいは寄託者といったところに了解をとれたものから順次公開していくというのがあるべきですし、そうやっていこうと思ひています。

【記者】 少なくとも、先週末のタイミングでは、まだその了解をとるといふ作業にも着手はしていないという状況で、台風が来てからもう早4か月以上が経過している状況でもまだそれというのがちょっと私の中では遅いのかなと思ひますし、そもそも

その復旧に係る当初予算というのを公表されている中で、予算計上しているのに、まだ被害の状況がわからないで、予算だけは出ているというのはちょっとなど思う部分もあるんです。これも前回、聞きましたけど、改めて。

【市長】 状況が見えてくるというところまで、今、この前、割合の話をしましたけども、一定程度見えてきたところでしっかりと方向性と、どれぐらい大体かかるのかということと、それと今、申し上げた、どういうものがどんな被害になっているのかということとをちゃんとしていかなければならないと思っています。今、一連のレスキュー作業に最も重きを置いてやっているということですので、遅いじゃないかという御指摘というのはしっかり受け止めさせていただきたいと思いますが、レスキュー作業をしながら、作家さんですとか、そういった寄託者に対する働きかけというか、御報告をしっかり行った上で公開していきたいと思っています。

《中学生死亡事件について》

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

すいません。最後にもう1点だけ。明後日に中1の男子の殺害事件から5年になります。事件の後にも、市としては検証報告書を出しておられますし、改めてその事件に対して、どういう事件だったかというふうに関心を持っていらっしゃるのかということと、加えて、あそこの報告書で出した取組を強化する策とか、再発防止策というものが今、現状、どこまでできて、まだできてないものがあると思っています。何ができているのかということについてお伺いできればと思います。

【市長】 あの5年前の事件で最も改善すべきだった点というのは、それぞれの機関がそれぞれの情報を持っていたにもかかわらず、それを重ね合わせて総合的に見ることができなかったということが最も大きな教訓だったと思います。そういった意味では、これまで、今年というか、来年度の予算でもそうですけども、児童相談の体制の整備でありますとか、あるいは、これまでずっと続けてきたのは地域包括ケアシステムのところで、どうやって地区内で起こっていることの情報を知り、重ね合わせるかということについて取り組んできました。もちろんそれが十分かと言えば、まだまだその取組が完璧ということはありませんけども、地域の人たちも巻き込みながら、今、挑戦しているというところだと思います。これについては引き続き頑張っていくという決意を改めて持っているところです。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

【記者】 すいません。今の質問の幾つか目の市民ミュージアムの情報公開の件なんですが、私も紙面を見ただけなんですけど、見るとほぼ全て真っ黒く塗られているような公開の仕方、部分開示というの何かおかしい出し方だなと思ったんですが、あれは市長、あの文書は、出され方は見えていますか。

【市長】 すいません。私、実は記事の写真は確認したんですが、物自体、私自身、確認しておりません。それは基準に基づいてそういうふうになっているということは聞いていますが、私自身が全部見たということではありません。

【記者】 私も紙面を見ているだけの質問なので、中途半端にはなってしまうのですが、是非見ていただいて、本当に黒く塗られている部分が個人情報に関わる部分、個人情報だけでできている文書はなかなかないと思うので、違和感を持って紙面を読んだんですけども、是非それは確認していただけたらと思います。

【市長】 はい、わかりました。そこの所管課の担当者があえて黒く塗っているということではないとは思いますが、改めて基準に合っているかということは確認させていただきたいと思います。

《市バス乗車料金値上げについて》

【記者】 たびたびですみません。市バス70周年ということなんですけど、交通局さんのほうで一度断念された値上げの交渉は、その後、取組が進んだ部分もあるのか、何か言えることがあったら教えてほしいんです。

【市長】 現在も国交省との協議は継続的に行っていると聞いております。

【記者】 まだ何かしら進展があったとか、そういう話ではない。

【市長】 今何か発表できる段階ではないですね。

【記者】 ブレイブサンダースさんとの同級生というのが、要は東芝さんとのということなんでしょうけど、この70年というのは、市長も生まれる前からのバスの事業だと思ってしまうので、改めてこの市バスというものが市民にとってどういう存在であるのか、その辺も含めてもう一言、PRをいただけたらなと。

【市長】 70年前は、本当に戦後間もない頃からということで、ただ、川崎市の映像だとか、写真だとかを見ると必ず市バスが出てくるということなので、川崎市のまさに発展とともに歩んできたということでもあるし、産業の振興だけじゃなくて、住民の臨海部から北部に拡大していく発展の歴史というものを市バスと一緒につくってきたということもあると思います。そういった意味で、70周年ということでいろいろ現状、市バスの課題というのはたくさんあって厳しい中ではありますが、求めら

れるもの、期待されていることというのは以前にも増して増えてきていると思いますので、より親しまれる存在でありたいし、市民の貴重な足であり続けるという意味でこの70周年をやるということですので、市民、市交通局の職員も、安全はもちろんのこと、サービスもしっかりとこれからも向上していけるような、そういった節目になってもらいたいと思っています。

【記者】 なるほど、ありがとうございます。

《逗子市の斜面崩落事故関連について》

【幹事社】 すいません。ちょっと細かいんですが、逗子で傾斜地崩落の事故がありましたけれども、現在、市も傾斜地を調べているということですが、土砂災害の警戒区域の中で、逗子と同じような民有地でなかなか行政指導ができないケースというのは、今、調べられている最中だと思うんですが、現状、どの程度あるのかとかというのは。

【市長】 現在、道路に面している市有地のみならず、民有地も含めてですが、目視でもって確認をして、そして、今月中にはその結果というのを取りまとめることになっております。それをもとに、これから指導だとかということをしていくことになるとは思いますが、現時点で、今日、何件ということは、今はまだまとまっていないので、今月末には集計しますので、また発表させていただきたいと思っています。

【幹事社】 ありがとうございます。

【司会】 ほかはいかがでございますか。よろしいですか。

では、本日の定例記者会見をこれで終了といたします。どうもありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355